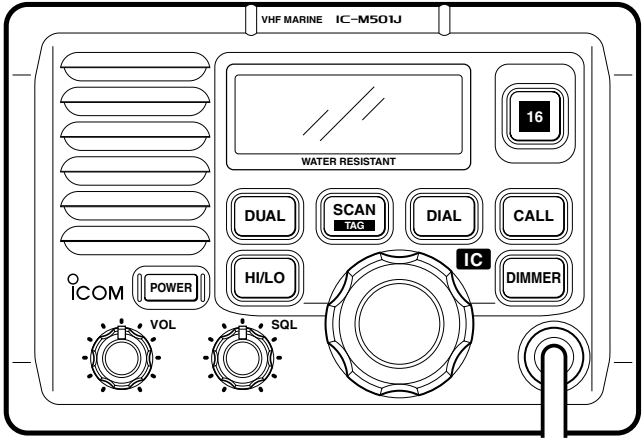
ICOM

取扱説明書

VHF MARINE TRANSCEIVER

IC-M501J



この無線機を使用するためには、総務省の無線局の免許が必要です。免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰されます。
この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.

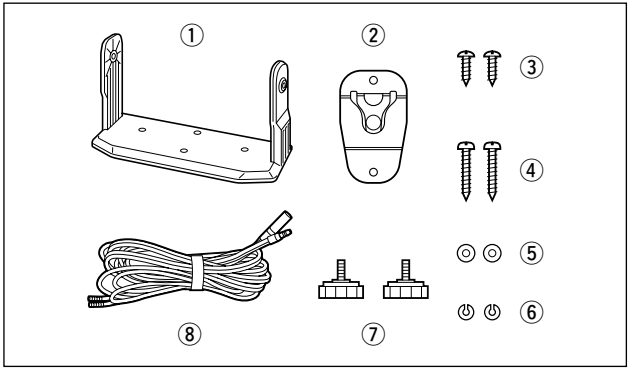
はじめに

このたびは、IC-M501Jをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本機は、海上移動業務用VHF帯送受信機で、港湾または沿岸で行われる対岸局および船舶相互間を可能にする、国際VHF/FM無線電話装置です。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、末長くご愛用くださいますようお願いします。

付属品



① 取り付けブラケット……1
② マイクロホンハンガー……1
③ マイクロホンハンガー用ネジ(3×16) ……2
④ 取り付けネジ(5×20) ……2
⑤ 平ワッシャー(M5) ……2
⑥ Sワッシャー(M5)……2
⑦ 取り付けブラケットノブ……2
⑧ DC電源ケーブル(OPC-946) ……1

登録商標について

アイコム、アイコム株式会社、 ICOM 、Icom Inc.はアイコム株式会社の登録商標です。

もくじ

安全上のご注意(必ずお読みください。) ——1
別売品一覧表 ——2
1 各部の名称と機能 ——3
■前面パネルの説明 ……3
■LCD(ディスプレイ) ……5
■マイクロホン ……6
2 設置と接続 ——7
■接続 ……7
■本機の取り付け ……8
■ご参考に ……10
3 基本操作 ——11
■チャンネルの選択 ……11
■受信と送信 ……13
■マイクロホンロック機能 ……14
■CALL(呼び出し)チャンネルの設定 ……15
■チャンネルネーム ……15
4 デュアルワッチ/トライワッチについて ——16
■概要 ……16
■操作 ……16
5 スキャンの操作 ——17
■スキャンモード ……17
■タグチャンネルを設定する ……18
■スキャンを開始する ……19
6 セットモード ——20
■セットモードの操作 ……20
■セットモードの機能項目 ……21
7 故障かな？と思ったら ——23
8 チャンネルリスト ——24
9 仕様 ——25
10 故障のときは ——28

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- お読みになったあとは、大切に保管してください。

■無線機本体について

⚠ 危険 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- **引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。**
  火災、爆発の原因になります。

⚠ 警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **電子機器の近く(特に磁気コンパスなど制御用電子機器)では絶対に使用しないでください。**
  電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- **DC電源コードを接続するときは、プラス⊕とマイナス⊖の極性をまちがえないように十分注意してください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **製品の中に線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。**
  そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス担当にご連絡ください。

操作上のご注意

- **この無線機を使用するには、第二級海上特殊無線技士以上の資格が必要です。**
  無資格での使用は、電波法違反で罰せられます。
- **この無線機を船舶以外で使用しないでください。**
  本機は、国際VHF/FM無線電話装置であり、船舶で使用することが原則とされています。
  陸上で使用すると電波法違反で罰せられます。
- **チャンネル16を常に聴取してください。**
- **チャンネル16をプレジャーボート間の一般通話に、絶対使用しないでください。**
  チャンネル16は遭難緊急安全通信チャンネルです。
  また、使用目的に応じたチャンネル以外で使用すると、電波法違反で罰せられます。
- **チャンネル77はプレジャー局と海岸局の呼び出し/応答チャンネルです。**
  チャンネル77も実行可能な限り聴取してください。

別売品についてのご注意

- 弊社別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されています。
- 弊社指定以外の別売品のご使用が原因で通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 弊社ホームページ(http://www.icom.co.jp)でも、本製品の別売品についてご覧いただけます。

●MB-75(フラッシュマウント)
本機をパネルに取り付ける場合にお使いください。

●SP-5(外部スピーカー)
音声出力に優れた大型外部スピーカー。

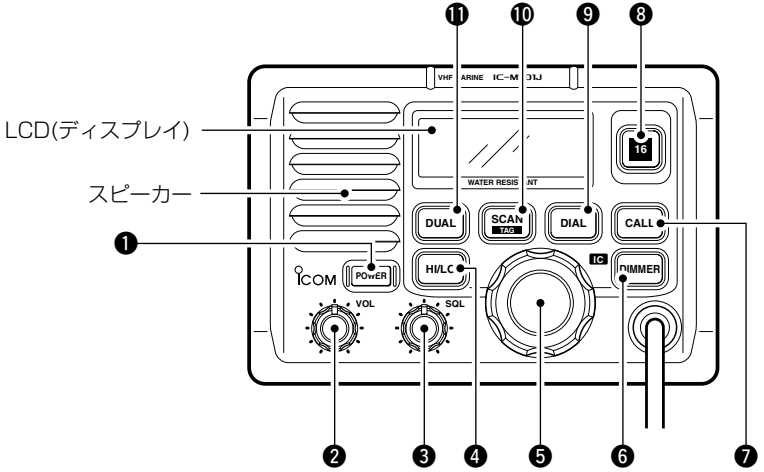
●SP-10(外部スピーカー)
コンパクトな外部スピーカー。
取り付けが簡単。

●HM-127B(リモートコントロールマイクロホン)
外部マイクロホンタイプコントローラー。
インターコム(船内通話)機能を提供します。
6mのマイクロホンケーブルと取り付けベース付き。

●OPC-999(マイクロホン延長ケーブル)
別売品のHM-127B用の6mマイクロホン延長ケーブルです。
OPC-999を2本まで接続できます。(最長18m)

1 各部の名称と機能

■前面パネルの説明



❶POWER(電源)スイッチ
本機の電源を**ON/OFF**するスイッチです。(☞P13)

❷VOL(ボリュームコントロール)ツマミ
音量レベルを調整するツマミです。(☞P13)

❸SQL(スケルチコントロール)ツマミ
スケルチレベルを調整するツマミです(☞P13)

❹HI/LO(送信出力)スイッチ
➥ 送信出力の**HI(25W)**/**LO(1W)**を切り替えるスイッチです。(☞P13)
※チャンネルによっては、**LO(1W)**にしか設定できないことがあります。
➥ **[HI/LO]**を押しながら、該当するスイッチを押すと、そのスイッチに備わった別機能を実行させることができます。

❺チャンネルセレクター

使用チャンネルを選択(☞P11、12、13)、またはセットモードの内容などを設定(☞P20)するチャンネルセレクターです。

❻DIMMERスイッチ

- ➥LCD(ディスプレイ)と各スイッチのバックライトの明るさを選択するスイッチです。
  [DIMMER]を押すごとに、バックライトの明るさが切り替わり、8段階の中から選択することができます。
- ➥約1秒間押し続けると、インターカム(船内通話)モードになります。(別売品のHM-127B接続時)

❼CALL(呼び出し)チャンネルスイッチ

- ➥CALL(呼び出し)チャンネルを選択するスイッチです。(☞P11)
- ➥約3秒間押すと、チャンネル番号が点滅し、呼び出しチャンネルの設定状態になります。(☞P15)
- ➥**[HI/LO]**を押しながら**[CALL]**を押すと、チャンネルネームの入力状態になります。(☞P15)

❽チャンネル16スイッチ

- ➥チャンネル16を選択するスイッチです。(☞P11)
- ➥**[16]**を押しながら、電源を**ON**にすると、セットモードになります。(☞P20)

❾DIAL(ダイアル)スイッチ

- ➥チャンネル16またはCALL(呼び出し)チャンネルを表示中に押すと、ダイヤルモードになります。(☞P11)
- ➥ダイヤルモード時に押すと、**国際**または**U.S.A.⇔WX**の切り替えを行うことができます。
- ➥**[HI/LO]**を押しながら、**[DIAL]**を押すと、チャンネルグループ(国際⇔U.S.A.)を選択することができます。(☞P12)

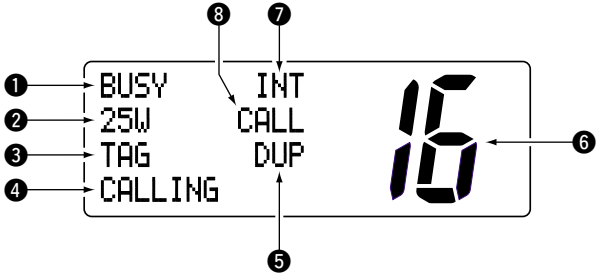
❿SCAN(スキャン)/TAG(タグ)スイッチ

- ➥通常スキャンまたはプライオリティスキャン機能をスタート/ストップするスイッチです。(☞P19)
- ➥**[SCAN/TAG]**を約1秒間押すと、表示されているチャンネルをタグ(スキャン対象)チャンネルに設定できます。(☞P18)
- ➥**[HI/LO]**を押しながら、**[SCAN/TAG]**を約3秒間押すと、選択しているチャンネルグループ内のすべてのTAG(タグ)を消去することができます。(☞P18)

⓫DUAL(デュアル)スイッチ(☞P16、21)

- ➥デュアルワッチまたはトライワッチ機能を選択するスイッチです。
- ➥デュアルワッチまたはトライワッチ機能が動作しているときに押すと、デュアルワッチまたはトライワッチ機能を解除します。

■LCD(ディスプレイ)



❶BUSY(話し中)/TRANSMIT(送信中)表示(☞P13)
- ➥信号を受信しているか、またはスケルチを開いているときには、**“BUSY”**が点灯します。
- ➥送信中は、**“TX”**が点灯します。

❷送信出力表示(☞P13)
- ➥HIを選択すると**“25W”**、LOを選択すると**“1W”**を表示します。

❸TAG(タグ)チャンネル表示(☞P18)
タグチャンネルを選択しているときは、**“TAG”**が点灯します。

❹チャンネルネーム表示
- ➥チャンネルネームが設定されていれば、ネームを表示します。(☞P15)
- ➥電源電圧が約10V以下になると、**“Low Battery”**(電圧低下)を表示します。
- ➥デュアルワッチの場合には**“DUAL”**、トライワッチの場合には**“TRI”**を表示します。(☞P16)

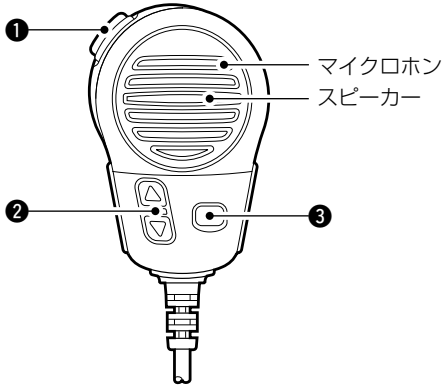
❺双方向通信表示
- ➥双方向通信チャンネルを選択すると、**“DUP”**を表示します。

❻チャンネル表示
- ➥選択された動作中のチャンネル番号を表示します。
- ➥セットモードでは、選択された状態を表示します。(☞P20)

❼チャンネルグループ表示(☞P12)
- ➥国際チャンネルまたはU.S.A.チャンネルのどちらが選択されているかを表示します。
- ●**“INT”** ：国際チャンネルを表示します。
- ●**“USA”**：U.S.A.チャンネルを表示します。

❽CALL(呼び出し)チャンネル表示(☞P11)
呼び出しチャンネルを表示します。

■マイクロホン



❶PTTスイッチ

➥ 送信するには、スイッチを押し続けます。

➥ 受信するには、スイッチから指を離します。(☞P14)

❷[▲]/[▼]スイッチ

チャンネル、セットモードの内容などを変更するとき、[▲]または[▼]のボタンを押します。(☞P13、20)

❸HI/LO(送信出力)スイッチ

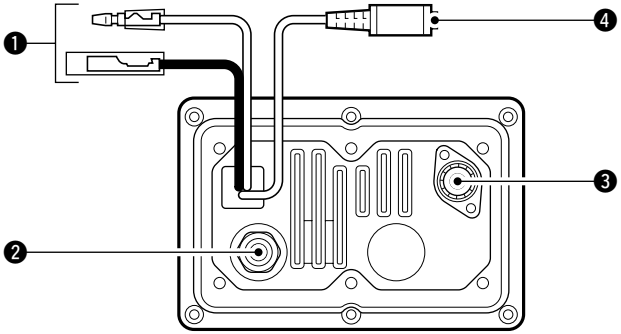
➥ 前面パネルにある[HI/LO]スイッチと同じ働きをします。(☞P3)

➥ [HI/LO]を押しながら、電源をONにすると、マイクロホンロック機能をON/OFFします。(☞P14)

● ロック機能が動作中でも、[PTT]スイッチは機能します。

2 設置と接続

■接続



❶DC電源コネクター
付属のDC電源ケーブルを使って、このコネクターと外部電源(DC 12V)を接続します。

❷外部マイクロホンジャック
別売品のHM-127B(リモートコントロールマイクロホン)を接続します。

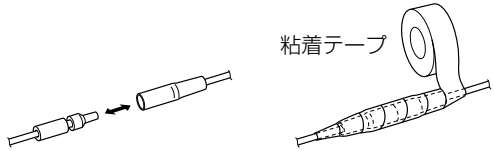
❸アンテナコネクター
M型コネクター付き、舶用VHFアンテナを接続します。

【ご注意】
アンテナを接続しないで送信すると、本機に損傷が生じることがあります。

❹外部スピーカージャック
外部スピーカーを接続します。
利用できる外部スピーカーについては、2ページの「別売品一覧表」を参照してください。

●マイクロホンハンガーについて
通話終了後は、付属のマイクロホンハンガーにマイクロホンを掛けてください。

【ご注意】
DC電源ケーブル、および外部スピーカージャックを接続したあと、下に示すとおりコネクターおよびジャックに粘着テープを巻き付け、本機内へ水が浸透しないようにしてください。



■本機の取り付け

◇付属の取り付けブラケットを使う

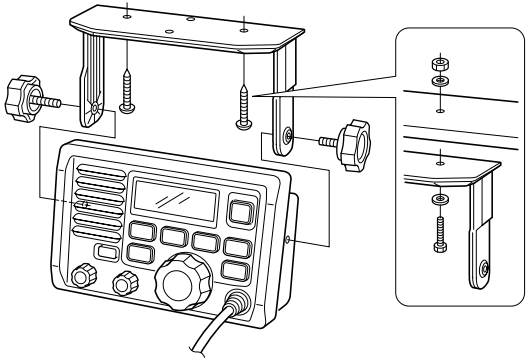
付属の取り付け用ブラケットを使って、本機を天井部やダッシュボードに取り付けることができます。

- 付属の2本のネジ(M5×20)を使って、厚さが10mm以上で5kg以上の荷重を支えることができる所に本機をしっかり固定します。
- 前面パネルの各スイッチやツマミなどの操作が容易にできる場所、さらに後面パネルの電源コードやアンテナケーブルなどが余裕をもって納まるスペースを確保してください。
- アンテナケーブルと電源コードは、できるだけ短くして、船舶エンジンなどのノイズを拾ったり、磁気的要素のあるものや電子計器に影響をおよぼさない配慮をしてください。
- 波の衝撃やエンジンの振動を大きく受けないように、しっかりと固定してください。

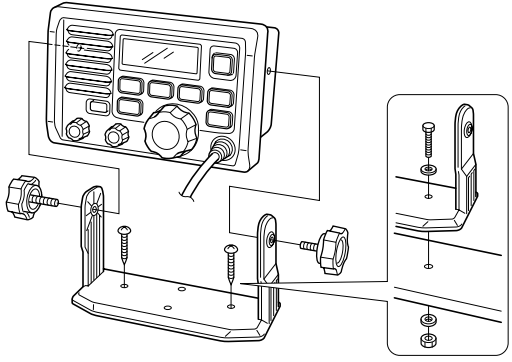
【ご注意】
本機とマイクロホンは、船舶の磁気航行コンパスから少なくとも1m以上離しておいてください。

【ご注意】
設置角度を確認してください。角度によってはLCD(ディスプレイ)表示を読み取りにくいことがあります。

●天井部への取り付け



●ダッシュボードへの取り付け

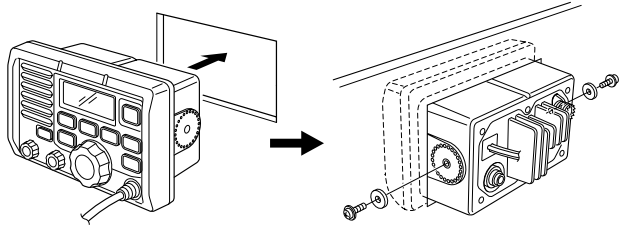


◇別売品のMB-75(フラッシュマウント)を使う

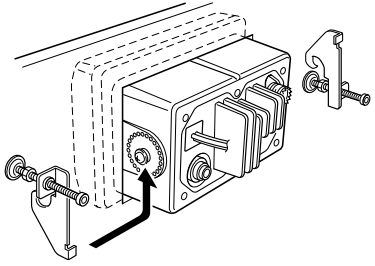
計器パネルのような平坦面へIC-M501Jを取り付けるのに、別売品のMB-75(フラッシュマウント)が用意されています。

【ご注意】
IC-M501Jとマイクロホンは、船舶の磁気航行コンパスから少なくとも1m以上離しておいてください。

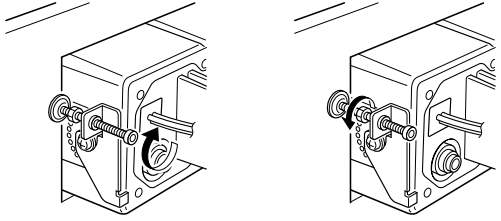
①最後のページにあるテンプレートを使い、計器パネル(またはコントローラーを取り付ける場所)に慎重に穴をあけてください。
②下図に示すとおり、IC-M501Jを穴にはめ込んだ後、付属の2本のネジ(M5×8mm)を両側面に取り付けます。



③IC-M501Jの両側面にクランプを取り付けます。
- クランプがIC-M501Jの本体と平行に並んでいることを確認してください。

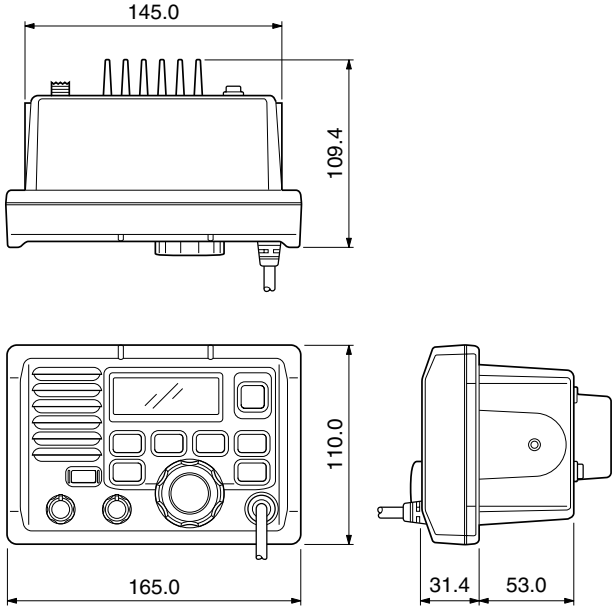


④クランプが計器制御パネルの内側表面をしっかり押すように、ボルトを締め付けます。(右に回す)
⑤下図に示すとおり、ボルトが緩まないようロックナットを締め付けます。(左に回す)
⑥アンテナと制御ケーブルを接続してから、計器制御パネルを元の位置へ戻します。



■ご参考に

◇寸法



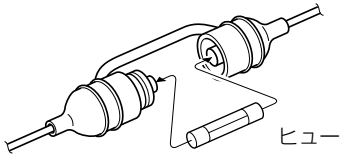
単位：mm

◇アンテナ

どの通信システムでも、その性能のキーポイントとなるのはアンテナです。アンテナとアンテナの最適設置場所については、最寄の販売店へお問合せください。

◇ヒューズ交換

付属のDC電源ケーブルには、ヒューズが1つ取り付けられています。ヒューズが切れたり、本機が動作しなくなった場合には、原因を取り除いたうえで、切れたヒューズを同定格の新しいヒューズと交換してください。



◇クリーニング

本機にほこりがついたり、汚れたりした場合には、柔らかい乾いた布で拭いてください。

ベンジンやアルコールなどの溶剤は、本機の表面を害することがあるため、使用しないでください。

3 基本操作

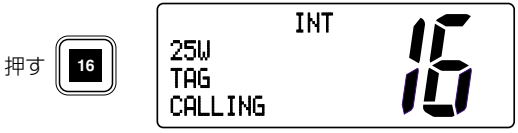
■チャンネルの選択

◇チャンネル16

チャンネル16は、遭難および安全信号チャンネルです。
このチャンネルは、他の局との初期通信を確立するため、また緊急連絡に使われます。
チャンネル16は、デュアルワッチおよびトライワッチの対象となっています。
待機中もチャンネル16をモニターしなければなりません。

➥ [16]を押して、チャンネル16を選択します。

➥ [DIAL]を押して、チャンネル16を選択する前の状態へ戻るか、またはチャンネルセレクターを回して、動作チャンネルを選択します。

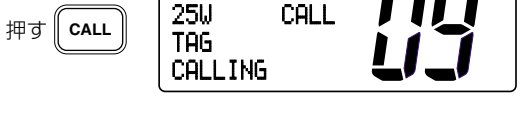


◇CALL(呼び出し)チャンネル

チャンネル16とは別に、仲間同士との連絡などに使用する呼び出しチャンネルを設定することができます。
この呼び出しチャンネルは、トライワッチの対象となります。
素早く呼び出しできるよう、各チャンネルグループ(国際⇔U.S.A.)で最もよく使用するチャンネルを設定することができます。(☞P15)

➥ [CALL]を押して、選択したチャンネルグループの中から設定した、呼び出しチャンネルを選択します。
- "CALL"表示と呼び出しチャンネル番号が表示されます。
- 各チャンネルグループは、呼び出しチャンネル設定後は、独立した呼び出しチャンネルを持つことができます。

➥ [DIAL]を押して、呼び出しチャンネルを選択する前の状態へ戻るか、またはチャンネルセレクターを回して、動作チャンネルを選択します。



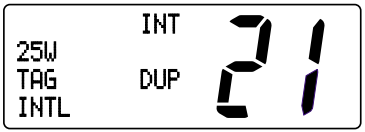
◇国際チャンネル

IC-M501Jで使用できる国際チャンネル数は**55個**です。

① **[DIAL]**を押して、通常使用するチャンネルを選択します。
- 国際チャンネルを選択すると、**“INT”**を表示します。

②チャンネルグループを変更したい場合は、**[HI/LO]**を押しながら**[DIAL]**を押します。
- 国際チャンネルとU.S.A.チャンネルを切り替えることができます。

③チャンネルセレクターを回し、チャンネルを選択します。
- 双方向通信チャンネルの場合は、**“DUP”**を表示します。



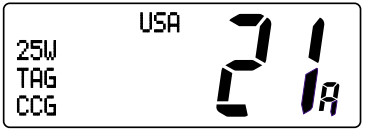
◇U.S.A.チャンネル

55個の国際チャンネルに加えて、**57個**のU.S.A.チャンネルがあります。

① **[DIAL]**を押して、通常使用するチャンネルを選択します。
- U.S.A.チャンネルを選択すると、**“USA”**を表示します。

②チャンネルグループを変更したい場合は、**[HI/LO]**を押しながら**[DIAL]**を押します。
- U.S.A.チャンネルと国際チャンネルを切り替えることができます。

③チャンネルセレクターを回し、チャンネルを選択します。
- 双方向通信チャンネルの場合は、**“DUP”**を表示します。



◇ウェザーチャンネル

米国およびカナダ海域においては、NOAA(米国海洋大気庁)放送からのウェザーチャンネルを受信するのに使います。
本機は、ウェザーチャンネルで待機中、またはスキャン中に、気象警報トーンを検出することができます。
「ウェザーアラート」については21ページを参照してください。

① **[DIAL]**を1回または2回押して、ウェザーチャンネルを選択します。
- ウェザーチャンネルを選択すると、**"WEATHER"**を表示します。ウェザーアラート機能を使っていれば、**"WX ALT"**を表示します。(☞P21)

② チャンネルセレクターを回し、チャンネルを選択します。
- LCDにチャンネルと受信周波数を表示します。

1回または2回押す

ウェザーアラート OFF の場合

ウェザーアラート ON の場合

■受信と送信

【ご注意】
アンテナを使わずに送信すると、本機に損傷が生じることがあります。

① **[POWER]**を押して、電源を**ON**にします。
② 音量レベルとスケルチレベルを設定します。
- ➥ あらかじめ**[SQL]**を反時計方向に一杯まで回しておきます。
- ➥ **[VOL]**を回して、音量レベルを調整します。
- ➥ **[SQL]**をノイズが消えるまで、時計回方向に回します。

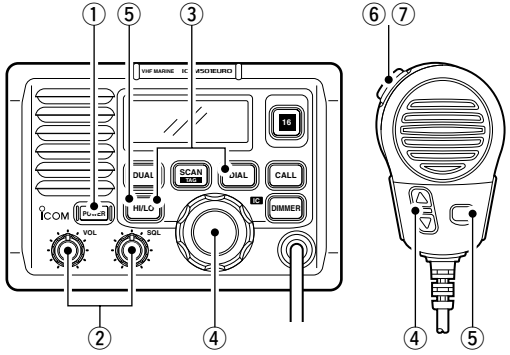
③ チャンネルグループ(国際⇔U.S.A.)を変更するには、**[HI/LO]**を押しながら**[DIAL]**を押します。
④ チャンネルセレクターを回すか、マイクロホンの**[▲]**/**[▼]**を押して、運用するチャンネルを選択します。
- 信号を受信した場合、**"BUSY"**が点灯し、スピーカーから音声が流れてきます。
- この時点で、さらに**[VOL]**を調整しなければならないことがあります。

⑤ **[HI/LO]**を押して、送信出力を選択します。
- **HI**または**LO**を選択すると、それぞれ**"25W"**または**"1W"**を表示します。
- 近距離通信の場合には**LO(1W)**、長距離通信の場合には**HI(25W)**を選択してください。
- チャンネルの中には**LO(1W)**しか使えないチャンネルがあります。

⑥送信するには[PTT]を押しながら、マイクロホンに向かって話してください。
- 送信中は、“TX”が点灯します。
- チャンネル70を送信に使うことはできません。(GMDSS用)。

⑦受信する場合には、[PTT]から指を離します。

【ご参考】
送信時の了解度をよくにするには、[PTT]を押してから数秒待ち、口をマイクロホンから10から15cm離して、普通に話をするときの音声レベルで話してください。



◇正しい通話のしかた

通話は定められた手順で、用件を簡潔に通報してください。

呼び出し側		応答側	
①「相手局の呼び出し名称」	3回以下	②「相手局の呼び出し名称」	3回以下
「こちらは」	1回	「こちらは」	1回
「自局の呼び出し名称」	3回以下	「自局の呼び出し名称」	1回
「どうぞ」	1回	「どうぞ」	1回
③「用件を簡潔に話す」		④「了解」	1回
「どうぞ」	1回		
⑤「以上」	1回		
「自局の呼び出し名称」	1回		

■マイクロホンロック機能

マイクロホンロック機能は、付属のマイクロホンの[▲]/[▼]および[HI/LO]スイッチを電気的にロックします。
これにより、偶発的なチャンネル変更や不慮の機能アクセスを防止することができます。

➥付属のマイクロホンの[HI/LO]を押しながら、電源をONにすると、ロック機能をON/OFFすることができます。

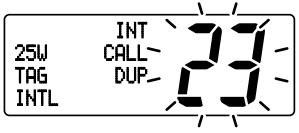
■CALL(呼び出し)チャンネルの設定

素早く呼び出しができるよう、[CALL]スイッチに、各チャンネルグループ(国際⇔U.S.A.)で、一番よく使うチャンネルを設定することができます。

① [HI/LO]を押しながら[DIAL]を押して、チャンネルグループ(国際⇔U.S.A.)を選びます。

※ウェザーチャンネル表示中は[DIAL]を押して、ダイヤルモードにし、①の操作を行います。

② [CALL]を短く押し(呼び出しチャンネルを選択)、再度[CALL]を約3秒間押すと、チャンネル番号が点滅し、呼び出しチャンネルの設定状態にします。



③ チャンネルセレクターを回して、希望のチャンネルを選択します。

④ [CALL]を押して、選択したチャンネルをCALL(呼び出し)チャンネルとして設定します。

- 取り消すには[DIAL]を押します。
- チャンネル番号の点滅が止まります。

■チャンネルネーム

各チャンネルには、それぞれ最大10文字の英数文字を使ってネームを付けることができます。

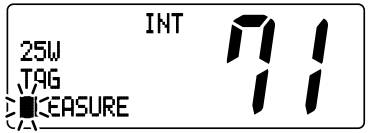
使用できる英数文字は、大文字、小文字、数字、ある種の記号(! " # $ % & ' ( ) ✱ + , - . /)およびスペースです。

① ネームを付けるチャンネルを選択します。

- あらかじめ、デュアルワッチ、トライワッチ、またはスキャンを解除しておきます。

② [HI/LO]を押しながら[CALL]を押すと、チャンネルネームの入力状態になります。

- このとき、1行目の枠カーソルが点滅します。



③ チャンネルセレクターまたはマイクロホンの[▲]/[▼]を押して、使用する文字を選択します。

- 枠カーソルを右方向に移動するときは[DIAL]、左方向に移動するときは[SCAN]を押します。

④ [CALL]を押して、入力したネームを設定します。

- 枠カーソルが消えます。

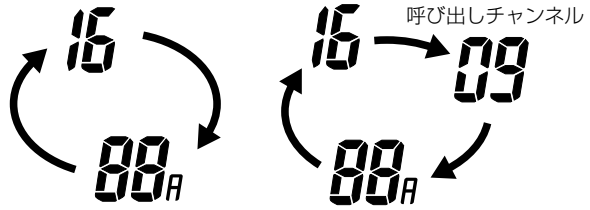
⑤ 別のチャンネルにネームを付けるときは、①から④のステップを繰り返してください。

デュアルワッチ/トライワッチについて

■概要

デュアルワッチは、チャンネル16以外のチャンネルを受信しながら、チャンネル16をモニターします。
トライワッチは、別のチャンネルを受信しながら、チャンネル16と呼び出しチャンネルをモニターします。

◎デュアルワッチ/トライワッチの動作例



デュアルワッチ　　トライワッチ

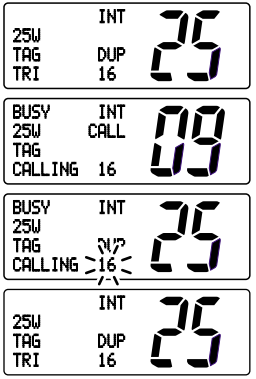
- チャンネル16で信号を受信している場合、その信号が消えるまでチャンネル16のデュアルワッチ/トライワッチは一時停止します。
- トライワッチ中に呼び出しチャンネルで信号を受信している場合、その信号が消えるまでトライワッチ動作は、デュアルワッチ動作になります。
- デュアルワッチ/トライワッチ中に選択したチャンネルを使って送信するには、送信の間[PTT]を押し続けてください。

■操作

①使用チャンネルを選びます。
②セットモードでデュアルワッチまたはトライワッチを選びます。(☞P21)
③[DUAL]を押すと、デュアルワッチまたはトライワッチを開始します。
- デュアルワッチ中は"DUAL"を表示、トライワッチ中は"TRI"を表示します。
- チャンネル16で信号を受信したときは、ビープ音が聞こえます。
- 呼び出しチャンネルで信号を受信しているときは、トライワッチがデュアルワッチになります。

④デュアルワッチ/トライワッチを解除するときは、もう一度[DUAL]を押してください。

[例]：INT(国際)チャンネル 25 の場合



トライワッチ開始

呼び出しチャンネルで信号を受信

チャンネル16での信号受信を優先

信号が消えたあと、トライワッチへ復帰

5 スキャンの操作

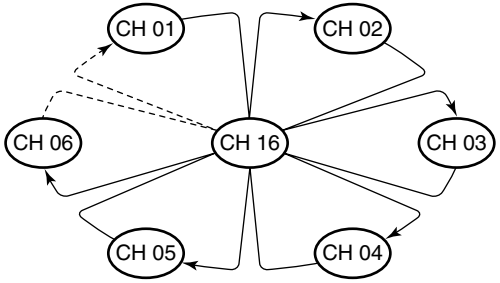
■スキャンモード

スキャンは、広い周波数レンジにわたって信号を素早く探し出すのに効果的な方法です。
本機は、プライオリティスキャンと通常スキャンの両方の機能を持っています。

スキャンの前にタグチャンネル(スキャン対象チャンネル)を設定します。
常に電波が送信されていて、スキャンを停止させる原因となるチャンネルは、TAG(タグ)を消去します。

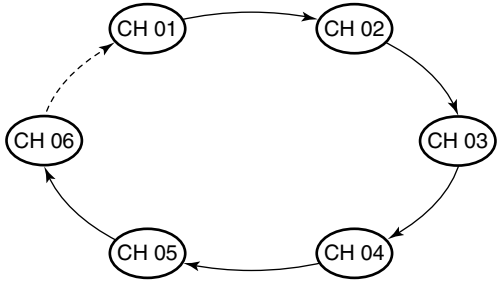
セットモードでプライオリティスキャンまたは通常スキャンのいずれかを選択してください。(☞P21)

◎プライオリティスキャン



プライオリティスキャンは、チャンネル16をモニターしながらすべてのタグチャンネルを順にサーチします。
チャンネル16で信号を検出すると、信号が消えるまでスキャンを一時停止します。
チャンネル16以外のチャンネルで信号が検出されると、その信号が消えるまでスキャンはデュアルワッチになります。

◎通常スキャン



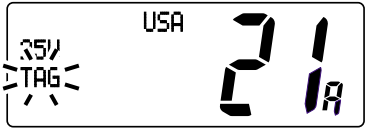
通常スキャンは、プライオリティスキャンと同様、すべてのタグチャンネルを順にサーチします。
ただし、チャンネル16がタグチャンネルとして設定されていない限り、チャンネル16はチェックされないという点が、プライオリティスキャンと異なる点です。

■タグチャンネルを設定する

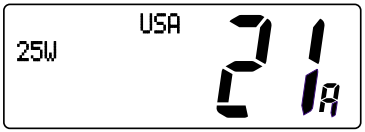
本機のスキャン機能は、TAG(タグ)を設定したチャンネル(タグチャンネル)だけをスキャンします。
スキャン中、TAG(タグ)が設定されていないチャンネルはスキップされます。
タグチャンネルは、個別にチャンネルグループ(国際⇔U.S.A.)に割り当てることができます。

①スキャンしたいチャンネルグループを選択します。
- **[HI/LO]**を押しながら**[DIAL]**を押すごとに、チャンネルグループ(国際⇔U.S.A.)を切り替えます。

②タグチャンネルにしたいチャンネルを選択します。
③**[SCAN/TAG]**を約1秒間押し、表示しているチャンネルをタグチャンネルとして設定します。
- LCDに**"TAG"**を表示します。



④タグチャンネルの設定を取り消すには、③の手順を繰り返します。
- **"TAG"**表示は消灯します。



●設定したチャンネルグループ内のすべてのタグチャンネルを消去すときは

①チャンネルグループを選択します。
- **[HI/LO]**を押しながら**[DIAL]**を押すごとに、チャンネルグループ(国際⇔U.S.A.)を切り替えます。

②**[HI/LO]**を押しながら**[SCAN/TAG]**を約3秒間押すと、そのチャンネルグループ内のすべてのTAG(タグ)を消去することができます。

■スキャンを開始する

セットモードであらかじめ、スキャンモード(プライオリティスキャンまたは通常スキャン)とスキャン再開タイマーを設定します。(☞P21)

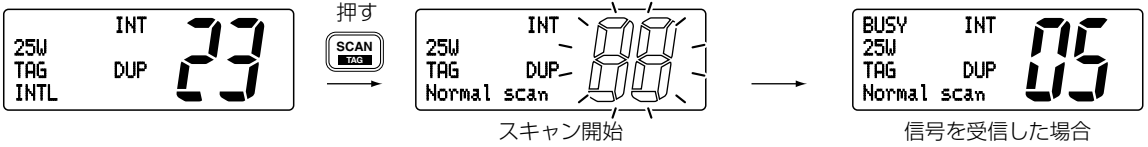
①スキャンしたいチャンネルグループを選択します。
- [HI/LO]を押しながら[DIAL]を押すごとに、チャンネルグループ(国際⇔U.S.A.)を切り替えます。

②タグチャンネルを設定します。(☞P18参照)

③[SCAN]を押して、プライオリティスキャンまたは通常スキャンを開始します。
- LCDにプライオリティスキャン選択時は"Pri scan 16"、通常スキャン選択時は"Normal scan"表示が点灯します。
- 信号を検出すると、セットモードでの設定に従って、その信号が消えるまでスキャンを一時停止するか、5秒間の停止後スキャンを再開します。(プライオリティスキャン中もチャンネル16はモニターされています。)
- チャンネルセレクターを回して、タグチャンネルのスキャンをチェックしたり、スキャンの方向を変更したり、手動でスキャンを再開したりできます。
- プライオリティスキャン中、チャンネル16で信号を受信すると"16"が点滅し、ビープ音が聞こえます。

④スキャンを解除するには、[SCAN]を押してください。
- "Pri scan 16"または"Normal scan"の表示が消灯します。

[例]：通常スキャンを開始する

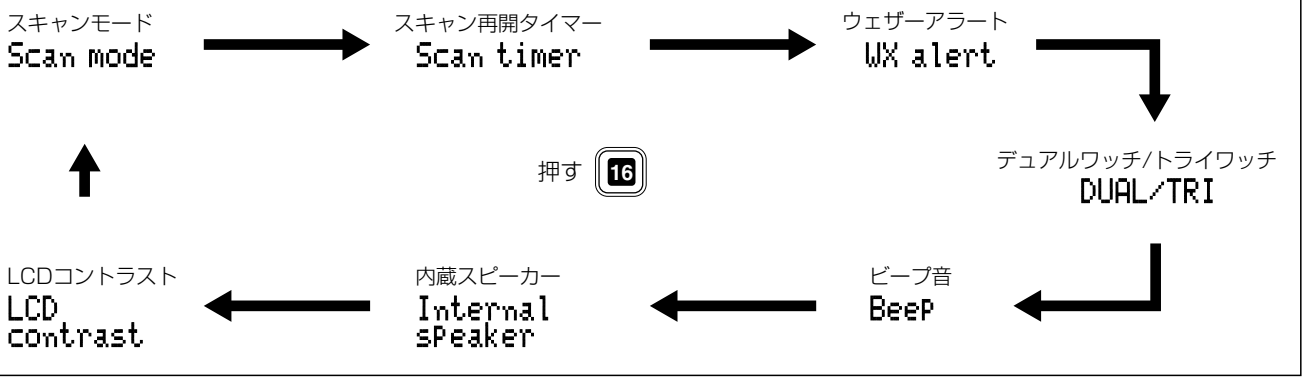


■セットモードの操作

セットモードは、本機の諸機能(スキャンモード「通常スキャンまたはプライオリティスキャン」)、スキャン再開タイマー、ウェザーアラート、デュアルワッチ/トライワッチの選択、ビープ音(本機またはHM-127B)、内蔵スピーカー、LCDのコントラスト(本機またはHM-127B)の状態を変更するのに使います。

①電源を**OFF**にします。
②**[16]**を押しながら、電源を**ON**にして、セットモードへ入ります。
③LCDが点灯すれば、**[16]**から指を離します。
④**[16]**を押して、変更したい機能項目を選択します。
⑤チャンネルセレクターを回し、選択した項目の内容を選択します。
※別売品のHM-127Bを用いる場合には、**[▲]**/**[▼]**を使ってください。
⑥電源を**OFF**にしてから、もう一度電源を**ON**にすると、セットモードを終了します。

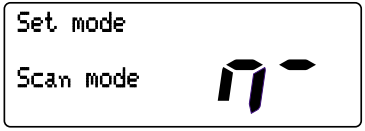
●セットモードの構成



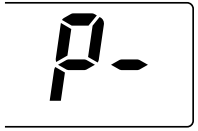
■セットモードの機能項目

◇スキャンモード

本機には、通常スキャンとプライオリティスキャンの2種類のスキャンモードがあります。通常スキャンは、選択したチャンネルグループ内のすべてのタグチャンネルをサーチします。プライオリティスキャンは、チャンネル16をモニターしながら、すべてのタグチャンネルをサーチします。



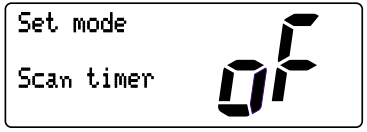
通常スキャン(初期設定)



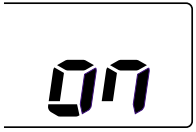
プライオリティスキャン

◇スキャン再開タイマー

スキャン再開の条件を設定することができます。
“oF”を選択すると、受信した信号が消えるまでスキャンを一時停止します。**“on”**を選択すると、スキャンを5秒間停止したあと、チャンネル16以外のチャンネルで信号を受信中でもスキャンは再開します。



スキャンタイマー OFF(初期設定)

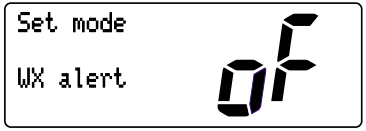


スキャンタイマー ON

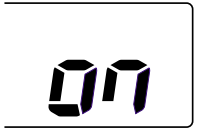
◇ウェザーアラート

NOAA放送局は、重要な気象情報を流す前に、気象警報トーンを送信します。ウェザーアラート機能が**ON**になっていれば、本機は警報を検出し、本機が操作されるまで**“WX ALT”**を点滅表示します。待機中またはスキャン中、随時、先に選択された(使用された)ウェザーチャンネルを調べます。

- この機能が**ON**にセットされていると、**“WEATHER”**に代わって**“WX ALT”**と表示されます。



ウェザーアラート OFF(初期設定)

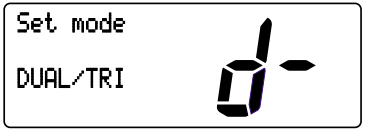


ウェザーアラート ON

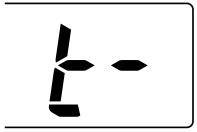
◇デュアルワッチ/トライワッチ

[DUAL]スイッチの機能をデュアルワッチまたはトライワッチ機能にセットします。

詳細については、「デュアルワッチ/トライワッチ」の項を参照してください。(☞P16)



デュアルワッチ(初期設定)

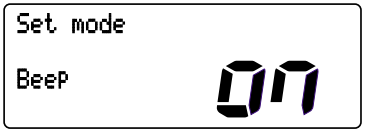


トライワッチ

◇ビープ音の設定

スイッチを押したときに鳴る、ビープ音を**ON/OFF**することができます。
“on”を選択すると、ビープ音が鳴ります。
“oF”を選択すると、ビープ音は鳴りません。

※別売品のHM-127Bは、本機の設定に関係なく、ビープ音の**ON/OFF**を設定できます。



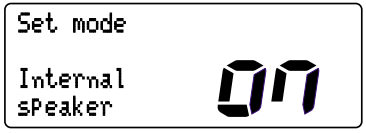
ビープ音 ON(初期設定)

ビープ音 OFF

◇内蔵スピーカー

別売品の外部スピーカーを接続し、本機の内蔵スピーカーが必要ない場合、内蔵スピーカーを機能停止状態にできます。

“oF”を選択すると、LCDに**“SP OFF”**と表示し、内蔵スピーカーを機能停止にします。



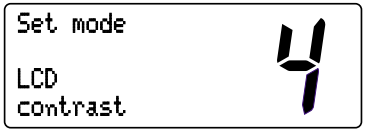
内蔵スピーカー ON(初期設定)

内蔵スピーカー OFF

◇LCD(ディスプレイ)のコントラスト調整

LCDのコントラストを8段階で調整できます。

※別売品のHM-127Bは、本機の設定に関係なく、コントラストを設定できます。



LCDコントラスト 4 選択時(初期設定)

7 故障かな？と思ったら

下記のような症状は、故障でないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

状　態	考えられる原因	解　決　策	参照ページ
電源がONにならない	●電源への接続不良	●本機への接続を調べる	P7
スピーカーから音声が聞こえない	●スケルチレベルが深すぎる ●音量レベルが低すぎる ●スピーカーに水が入っている	●スケルチを雑音が聞こえ出す直前に設定する ●[VOL]を適切なレベルに設定する ●スピーカーから水を抜く	P13 P13
送信できないか、HI(25W)を選択できない	●チャンネルの中には、受信専用のチャンネルがある ●出力がLO(1W)にセットされている	●チャンネルを変更する ●[HI/LO]を押して、HI(25W)を選択する	P11～13、24 P13
スキャンが始まらない	●TAG(タグ)チャンネルが設定されていない	●スキャンしたいチャンネルをTAG(タグ)チャンネルに設定する	P18
ビープ音がしない	●ビープ音がOFFになっている	●セットモードでビープ音をONにする	P22

チャンネル番号		周波数(MHz)	
INT	USA	送信	受信
01		156.050	160.650
	01A	156.050	156.050
02		156.100	160.700
03		156.150	160.750
	03A	156.150	156.150
04		156.200	160.800
05		156.250	160.850
	05A	156.250	156.250
06	06	156.300	156.300
07		156.350	160.950
	07A	156.350	156.350
08	08	156.400	156.400
09	09	156.450	156.450
10	10	156.500	156.500
11	11	156.550	156.550
12	12	156.600	156.600
13	13†	156.650	156.650
14	14	156.700	156.700
15†	15†	156.750	156.750
16	16	156.800	156.800
17†	17†	156.850	156.850
18		156.900	161.500
	18A	156.900	156.900
19		156.950	161.550
	19A	156.950	156.950

チャンネル番号		周波数(MHz)	
INT	USA	送信	受信
20	20	157.000	161.600
	20A	157.000	157.000
21		157.050	161.650
	21A	157.050	157.050
22		157.100	161.700
	22A	157.100	157.100
23		157.150	161.750
	23A	157.150	157.150
24	24	157.200	161.800
25	25	157.250	161.850
26	26	157.300	161.900
27	27	157.350	161.950
28	28	157.400	162.000
60		156.025	160.625
61		156.075	160.675
	61A	156.075	156.075
62		156.125	160.725
63		156.175	160.775
	63A	156.175	156.175
64		156.225	160.825
	64A	156.225	156.225
65		156.275	160.875
	65A	156.275	156.275
66		156.325	160.925
	66A	156.325	156.325

チャンネル番号		周波数(MHz)	
INT	USA	送信	受信
67	67†	156.375	156.375
68	68	156.425	156.425
69	69	156.475	156.475
70‡	70‡	156.525	156.525
71	71	156.575	156.575
72	72	156.625	156.625
73	73	156.675	156.675
74	74	156.725	156.725
77	77†	156.875	156.875
78		156.925	161.525
	78A	156.925	156.925
79		156.975	161.575
	79A	156.975	156.975
80		157.025	161.625
	80A	157.025	157.025
81		157.075	161.675
	81A	157.075	157.075
82		157.125	161.725
	82A	157.125	157.125
83		157.175	157.175
	83A	157.175	161.775
84	84	157.225	161.825
	84A	157.225	157.225
85	85	157.275	161.875
	85A	157.275	157.275

チャンネル番号		周波数(MHz)	
INT	USA	送信	受信
86	86	157.325	161.925
	86A	157.325	157.325
87	87	157.375	161.975
	87A	157.375	157.375
88	88	157.425	162.025
	88A	157.425	157.425

WX	周波数(MHz)	
チャンネル	送信	受信
01	受信専用	162.550
02	受信専用	162.400
03	受信専用	162.475
04	受信専用	162.425
05	受信専用	162.450
06	受信専用	162.500
07	受信専用	162.525
08	受信専用	161.650
09	受信専用	161.775
10	受信専用	163.275

† LO(1W)出力専用のチャンネルです。

‡ 受信専用のチャンネルです。

U.S.A.気象およびカナダ気象の受信のみです。

9 仕 様

■ 一般仕様

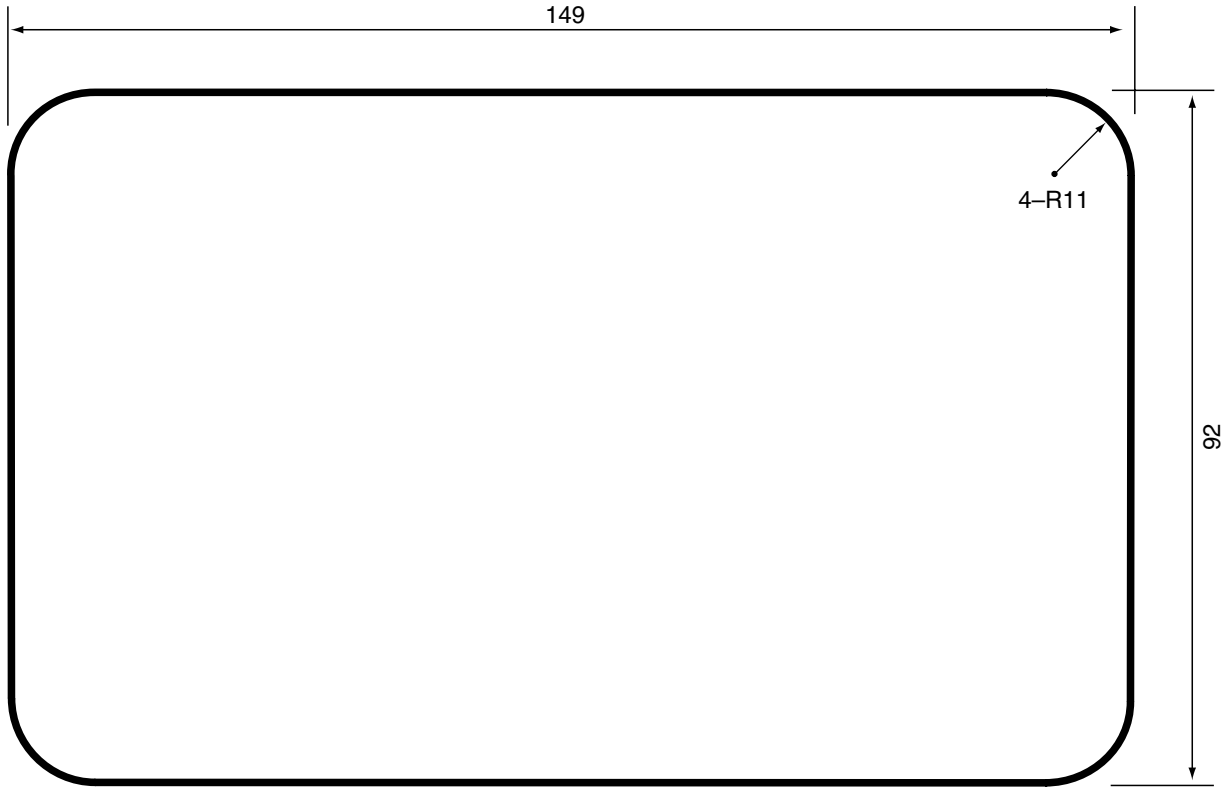
- **周波数範囲とチャンネル数：国際チャンネル(55チャンネル)**
  送信 156.025～157.425MHz
  受信 156.300～162.025MHz
  USAチャンネル(57チャンネル)
  送信 156.050～157.425MHz
  受信 156.050～162.025MHz
  ウェザーチャンネル(10チャンネル)
  受信 161.650～163.275MHz
- **電波型式：**F3E
- **通信方式：**単信プレストーク方式
- **発信方式：**水晶制御による周波数シンセサイザー方式
- **空中線インピーダンス：**50Ω 不平衡
- **電源電圧：**DC 13.8V ±10%
- **接地方式：**マイナス接地
- **消費電流：**送信 25W出力時 6.0A以下
  1W出力時 1.5A以下
  受信 待ち受け時 0.7A以下
  音量最大時 1.2A以下
- **磁気コンパスに対する安全距離：**1m以上
- **外形寸法：**165(W)×110(H)×109.4(D)mm
  (突起物を除く)
- **重量：**約1130g

■ 送信部

- **送信出力：**HIGH 25W
  LOW 1W以下(電力低減装置動作時)
- **送信周波数安定度：**±10×10^{-6}(0.001%)以内
- **変調方式：**リアクタンス変調
- **最大周波数偏移：**±5kHz(IDC付き)
- **標準変調入力：**8mV ±3dB(1kHz 70%変調時)
- **占有周波数帯幅：**16kHz以内
- **プリエンファシス：**300Hz～3000Hzの周波数において
  6dB/oct(1kHz基準)
- **総合歪率および雑音：**1kHz 70%変調にて20dB以上
- **スプリアス発射の強度：**帯域内 0.25μW(−80dB)以下
  帯域外 25μW(−60dB)以下

■ 受信部

- **受信方式：**ダブルスーパーヘテロダイン方式
- **中間周波数：**第1 21.7MHz 第2 450kHz
- **局部発信周波数：**第1 受信周波数−21.7MHz
  第2 21.25MHz
- **局部発信周波数安定度：**±10×10^{-6}(0.001%)以内
- **20dB雑音抑圧感度：**2μV以下
- **通過帯域幅および減衰量：**6dB帯域幅 12kHz以上
  70dB帯域幅 25kHz以内
- **スプリアスレスポンス：**80dB以下
- **感度抑圧効果：**10mV(80dBμ)以上
- **相互変調特性：**1.78mV(65dBμ)以上
- **総合歪および雑音：**1kHz 70%変調の受信出力にて
  入力10μVにおいて20dB以上
- **スケルチ感度：**−7dBμ以下
- **ディエンファシス特性：**300Hz～3000Hzにおいて
  6dB/oct(1kHz基準)
- **低周波出力：**3.5W以上(4Ω 10%歪時)
- **副次的に発射する電波等の限度：**4nW以下(疑似負荷入力)



単位： mm

ここから切り取ってください。

● **保証書について**
保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● **修理を依頼されるとき**
「故障かな？と思ったら(☞7章)」にしたがって、もう一度調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● **弊社製品のお問い合わせ先について**
お買い上げいただきました弊社製品の技術サポートなどご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先：アイコム株式会社
サポートセンター：06-6792-4949　(平日 9:00～12:00、13:00～17:00)
電子メール：support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」をご覧ください。

高品質がテーマです。

A-6020G-1J-③
Printed in Japan
© 2001-2007 Icom Inc.

この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32